

# シエムリアップ Moi Moi ライフ

ISSUE  
105

「Moi Moi」とはクメール語で「ひとつずつ、ゆっくり」との意味。恵み豊かなカンボジアでのスローライフをお届けします。



## 他国事ながら

**小出 陽子 (Yoko KOIDE)**  
1992年早稲田大学大学院卒。一級建築士。2000年、UNESCO/JSA 遺跡修復オフィス建設のため、カンボジアに赴任。2005年シエムリアップにレストラン Cafe Moi Moi をオープンする。同年JST (NGO: アンコール人材養成支援機構) を設立し、農村地域の支援活動を始める。2013年「アンコールの都の西北」に公立のバイヨン中学校を創設。2019年には高校も併設され、現在、全校生徒 630 人の学校運営を行っている。

● JST ホームページ  
<http://www.jst-cambodia.net>

## 他国事ながら

昨年末、バイヨン中学校で建設中だったトイレ現場でのこと。小さな現場なので、地元の建設職人チームに仕事を依頼しました。棟梁はとても真面目で、モルタル仕上げなどの腕もなかなか。これはいけると思っていたのですが、1.15ミリ間隔で壁にボーダーを付けてほしいと依頼したところ、出来上がったのは1.50ミリ間隔のボーダー。当初、(図面が理解できない様子だったので) 巻尺を当ててチヨークで原寸線を描いて指示をしたのですが、それでも間違えたことにはやや面喰いました。気を取り直してもう一度やり直してもらったのですが、2度目も1.50ミリ間隔で作りはじめたのを見て、流石にこれはまずいと、急遽、別の業者を探し、交替してもらいました。おそらく彼らは小学校に通ったことがない、もしくは低学年で退学していて、ミリの単位を知らなかったのでは? と思ったのでした。その直後、教師が見つからないバイヨン中学校新1年生に、数学を教えることにな



数学の授業風景

りました。まずは算数の理解度を計るために簡単な計算問題を与えたのですが、少数の計算ができる生徒は全体の1割にも満たないことが判明。例えば、 $0.5 + 3$  は  $8$  や  $0.8$  と答える生徒が9割以上もいたのです。以前から、「小学校レベルの計算やクメール語ができない生徒がいて、教える先生方が苦労している」とは聞いていましたが、ここまで酷い状況だとは思っていませんでした。算数の土台がなければ中学校3年間の数学は全く理解できないはず。さらに、そのまま高校に進学している生徒もいるのでは? と思い、市内の高校に通う高校生と同じ計算問題を解いてもらったところ、なんとその学生も  $0.5 + 3 = 8$  と答えたのでした。

公立学校に教師が派遣されず、教育に対する親の理解も乏しいカンボジア農村部は、今後どうなるのでしょうか? 他国事ながら、老婆心ながら、心配になった年末の1か月でした。